

# 新春対談

市長

あけましておめでとうございます。今回は新春対談ということで、東村山市のしあわせ大使である竹下景子さんにお越しいただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

竹下さん  
あけましておめでとうございます。よろしく願いいたします。

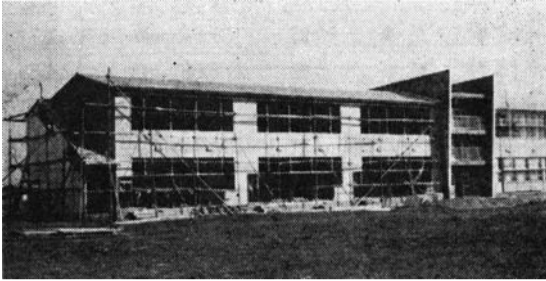
## 東村山の思い出

市長

子どものころは東村山市で過ごされたそう。竹下さん はい。少女時代を多摩みどり幼稚園、南台小学校と、東村山で育ちました。小学校にあがったころは、まだ分校だったため、給食がなくて各自が持参したお弁当でした。パン屋さんに来てくれたので、パンを食べた日は母親が給食袋に「ハムサンド」や「コーヒー牛乳がいい」と書いてお金を入れてくれて、お昼には注文したものが届く。それはそれでとても楽しい思い出です。いまだにその時代は、特別な思い出がありますね。

市長 この間、南台小学校が創立50周年を迎えて、竹下さんからメッセージをいただきました。

竹下さん はい、今申しあげたようなこともメッセージとして書きま



増築工事中の八坂小学校南台分校 (東村山町広報 昭和36年2月25日発行)

市長 昨年、東日本大震災がありました。竹下さん 市長さんは、被災地支援とは別の形で被災地に行かれたそうですね。

市長 はい。被災地の現状を知るとのこと、やはり何かのお役に立てればという強い思いがありました。

また、東村山市には国立のハンセン病療養所がありますので、毎年、療養所が所在す

## 昨年を振り返って

市長

湖で写生したり、キャンプに出かけたりしました。市長さんもそんな感じでしたか。

市長 私は萩山という所で、子どものころは、まだ木造住宅でしたが、子どもたちはカブトムシなどの虫採りをしたり、更地の野原みたいな所では缶蹴りをして遊んだりという感じでした。

竹下さん そうですよ(笑)。



思い出を語る竹下さん

市長 自治体で開催する総会に参加しており、その際に宮城県登米市の市長から避難者対応等の話を伺いました。そこで夏休みを利用して、8月上旬に登米市の避難所だった鱒淵小学校を訪問しました。

また、宮城県南三陸町のボランティアとして参加し、ヘドロの掻き出しや草むしりなどの支援活動も行っていました。

市長 たまたま私たちが作業した日は比較的涼しかったのでよかったのですが、暑い日だと本当に大変だったのではないかと思います。

竹下さん はい。今はメモリアルコンサートと名前が変わっていますが、1月17日は毎年神戸に行って、音楽と朗読の会(今年で13回)のコンサートに参加してきました。

市長 昨年は東日本大震災が起きましたので、今年の1月を最終回とし、今度は東北に引き継ぐ形で3月11日に仙台市で行う予定です。

その中で全国から一般公募で寄せられた作品を私が朗読します。私は震災前の神戸を知りませんので、それらの作品を読むと、体験されたかたの言葉の重さや切実さについて、次の世代の子どもたち

## 新たなことへの挑戦

市長

各界の女性のかたと一緒に「ななにかい」として活躍されていますね。

竹下さん はい。「ななにかい」は格差社会と言われるようになる中で、女性の地位や弱い立場に立つて発信していくという取り組みの一つです。

市長 なるほど。自治体行政でも女性の地位などを考える男女協働参画という取り組みが一つの大きな政策の柱となっています。

竹下さん ボランティアといっても大変な作業だったのでは。

市長 たまたま私たちが作業した日は比較的涼しかったのでよかったのですが、暑い日だと本当に大変だったのではないかと思います。

そういえば、竹下さんのホームページを拝見しましたが、1999年から阪神淡路大震災の支援活動もされていますね。

竹下さん はい。今はメモリアルコンサートと名前が変わっていますが、1月17日は毎年神戸に行って、音楽と朗読の会(今年で13回)のコンサートに参加してきました。

市長 昨年は東日本大震災が起きましたので、今年の1月を最終回とし、今度は東北に引き継ぐ形で3月11日に仙台市で行う予定です。

その中で全国から一般公募で寄せられた作品を私が朗読します。私は震災前の神戸を知りませんので、それらの作品を読むと、体験されたかたの言葉の重さや切実さについて、次の世代の子どもたち

竹下さん

働く女性の皆さんは、すごい義務感をもって仕事をしているかたばかりではないと思います。もっと全般的に言えば、女性の皆さんが何を目的として仕事をしているのかということにもよるとは思います。「ただ生活のため」ではなく、「社会参加をしたい」という自分の生きがいも含めて、仕事をされているかたの方が多いいのではないのでしょうか。

よく役者などは「代わり身がきかない仕事だから、親が死んでも仕事がある場合は舞台に立たなくてはいけません」とも共感を持ってもらうことで伝えていくのではないかと、私たちがからの願いで活動しています。

市長 素晴らしい活動をされていますね。

私も震災を通じて感じましたけれど、何気ない日常の光景というものが、いかにかけがえないものなのかということが痛感させられ、家族や親しい友人、仕事の仲間との時間などは、本当に大切にしなければいけないという思いになりました。

竹下さん

でも、それは別に俳優に限ったことではなく、「自分がこの仕事を責任持ってやるんだ」と引き受けた以上は、どんな立場のかたでも変わらないと思います。自分が仕事をやるにあたって、どういう腹のくくり方をしているのか、皆さんが考えて自分で決断をすべきところではないかなと思います。

仕事をやる中で、家庭とは違うコミュニケーションも生まれ、楽しいこともあれば辛いこともありそうですが、でも私は、自分自身が力を発揮して得られたことは決して無駄ではないと思います。

まずは、思い切って全力投球して欲しいです。「私はここまで」というふうには自分の中でゴールを決めないで、ぜひ勇気を持っていただきたいです。

市長 ありがとうございます。

先程から竹下さんのお話を伺っていますと、いろいろなことに好奇心を持っていらっしゃることが分かりましたけれど、新しいことに次々と挑戦されているのが、新たなことに挑戦される原動力はどこにあるのですか。



竹下さん

私も自身もそうですが、健康で家族とともに毎日が自分たちの好きなことに集中できる環境に恵まれているというのが第一だと思います。

でも何と言いますか、原点は、わからないことは「何故だろう」と思い、それを「知りたい」と思うし、そこにいるその人は「何を考えているのだろう」とお会いしてみたくなります(笑)。「知らないことがある」と思うことも楽しいです。

でも実際にその場に行ってみると、良くも悪くも全然違ったりしますね。やっぱり自分の目で見たいという気持ちは年々強くなります。

市長 なるほど。私も今回の震災でお邪魔して、いろいろと考えさせられることはいっぱいありました。

## 6面へつづく



女優 竹下 景子

平成21年東村山市「しあわせ大使」に就任  
昭和48年女優デビュー、「男はつらいよ」のマドンナ役を3度務めるなど、映画・舞台への出演のほか、国連WFP協会(国連世界食糧計画)親善大使などでも活躍中